

# ISK経営塾66期 講義キーワード

第3回

2005年5月9日(月)

## ◆前回講義キーワード

- 指示待ちなど、受身のサラリーマン的思考方を止める。自主性をもった勝てるビジネスマンとなる。
- 全てのことを我が事として学び、そして何事にも挑戦し続けて成長をしていく。
- “城は内から崩れる”。人が情熱を持って仕事をできる環境を常に創る。
- 目の前にある問題解決をする企業ではなく、自らあるべき姿へ向かっての問題を構築できる企業となる。
- お役立ちをするということは、自己を忘れるからこそできるもの。自己を忘れ、GIVE & GIVE。このマーケットへの貯金がいずれ自分に返ってくる。
- 強いところをさらに伸ばす。弱いところは平均点以上。全てそこそこでは21世紀には勝てない。

- 今やれることはいくらでもある。物事をシンプルにとらえ、やれること、足下をやり抜く。
- お客が望んでいるのは、精確な仕事・便利さ・提案力・楽しさである。
- 人時を待つ、時人を待たず。先送りする理由を探さずに、いま・ここに意思を入れてやるっきゃない！
- 現象の捉え方も心の置き所次第。絶対積極で物事を捉えられるようにしよう。
- 自分で壁を作らずに、いいと感じたら異文化からドンドン学ぶ。
- どうせやるなら、大きなテーマを選べ。大きなテーマがあるからこそ、意識も行動もダイナミックになる。
- 経営とは「原理・原則」＋「意識改革」＋「コンセプトの追求」である。常にこの3つのレベルアップを繰り返していく。

- 経営は限られた資源をどこに効率よく集中していくかがポイントとなる。だからこそ、20:80を明確にしていく。
- あるべき姿を見据えて“20”を決める。20を決めずに、全てやるというのは、何もやらないと言っているのと同じである。
- リーダーは20を決め、20を行う。80は作業である。
- 20を徹することで80の効果を生み出せるように、20を強くしていく。
- 弱い会社ほど手を広げすぎている。強み、得意分野に絞り込み、価値を高めていく。
- ターゲットを絞り込み、相手を喜ばせることにより価値は高まっていく。